木と建築で創造する共生社会実践研究会

A-WASS 事務局長通信 第 2 号

http://a-wass.org/

会長　長澤　悟　　編集　花岡 崇一

第 4 回 A-WASS 総会　私の思い

2017 年 3 月、「木と建築で創造する共生社会実践研究会（A-WASS）」の総会が法政大学理工学部マルチメディアホールで開かれました。昨年度 A-WASS は、埼玉県ときがわ町有林での地域づくり、岩手県遠野市のバイオマス事業応援、群馬県川場村視察、東海や九州の支部活動、設計者の研修会や視野を広げる講演会などの活動に取り組んできました。

4 年目の今年、林業再生への道筋をつけることが急がれていると考えています。それは、IS や北朝鮮の動向だけでなく、世界各国が自国の権益を露骨に求める動きが強まってきているからです。自由貿易協定は強い国が弱い国に譲歩を強いるツールとして働きます。そんな中、食料とエネルギーの自給を図ることは喫緊の課題です。A-WASS は「日本が有する資源の一つ『木』」をもとに、わが国の歩む途を考えていきたいと思います。

大型バイオマス発電がかなり増えてきました。私が通った遠野の近くの花巻市にもできました。問題は発電の原料となるチップです。大型発電炉はチップの形状・性能を選びませんが、必要とするチップとなる原木が不足していることです。逆に、皆伐、伐採後の放置などの問題が九州南部では顕在化しています。山の木を伐ればいいではなく、50 年後どんな山を残すかを考えた伐採の仕方を真剣に考えることが大事です。

山元に行って痛感するのは、伐採量を増やそうとすると山に入っていく道がない。道を作ろうとすると、所有者が分からない森にぶつかる。または、所有地の境が不分明ということが多いのです。集約化を図る努力は遅々として進まず、道を作るには多額の費用が掛かる。この堂々巡りのなかで、林業を産業として創る仕組みが見えてきません。もちろん、意欲と努力で取り組んでいる方々はいます。しかし、出口の木の利用を増やすこと、必要な量を確実に切り出すこと、この両輪をまわす態勢が必要なのです。

その際、大切なことは「山は、木は、今の所有者や森林組合だけの問題ではない」という視点だと考えます。所有も仕事もしていないが、ここにしか住めない我々が、何ができるか、何をなすべきかを明らかにしていくことが A-WASS の使命だと考えるのです。そのために、多方面の方々とともに考える場をつくり、小さいけれど解に近づく取り組みに学び、会員や先進者の実践を発信し、「山と産業・山と暮らし」を考える変革の波を起こす一翼を担いたいと思います。

会員・先進者の実践紹介

東洋大学建築学科のオープンリサーチ研究組織として誕生した「木と建築で創造する共生社会研究会（WASS）」の 5 年間を経て、この調査・研究で親しくなった森林組合・素材生産者・製材所・家具木工所の人々や設計者・研究者と自主的な会員組織「木と建築で創造する共生社会実践研究会（A-WASS）」を 2013 年に立ち上げました。会員や林業・林産業の先進者を花岡がお訪ねして、お考えや仕事ぶりを報告します。

㈱ヤギサワ（製材工場）（栃木県日光市今市地区）訪問

5 年前、花岡が日光市に移住したこともあって、八木澤さんのところにはよくお訪ねします。祖父の代（昭和 2 年）から木材の製材・加工を主力業務とする企業です。４代目の八木澤統隆専務さんが取り組んでいた**不燃木材**が那珂川町役場に使われたことを知って話を聞きにいきました。

2000 年施行の改正建築基準法によって、防火性能などが一定の基準を満たせば木材でも「不燃」として使用を認める「性能規定」が導入されました。「不燃木材」として販売するには、厳しい大臣認定を取得しなければならない。2012 年、9 社の製品が「大臣認定違反」として摘発された事件が起きた。薬剤がしっかり含浸していなかったのだ。「難しいものだな」というのが、私の不燃木材の感想でした。しかし、高齢者施設や役場施設などは木を使う場合、不燃材はなくてはならないものになったのです。

不燃木材

統隆さんは、「4 種類の薬剤を 70 度のお湯に溶かし保温は 40 度にする→圧力容器で乾燥材に注入→養生 2 週間→人工乾燥（中温）1 週間（水分だけ抜く）→モルダーで成形→乾燥 1 日（桟木の跡がつかないように工夫をしている）→サンダー掛け→1 枚ずつ重量測定（薬剤が含浸したかの最重要テスト）→白華抑止ためキヌカ仕上げ（米ぬか原料の自然塗料）。とにかく手間がたいへん」と言う。しかし、**栃木県内唯一の製造工場**として県内外から注文がきている。きれいな仕上がりのために、材は赤身を避けて、白太をつかうそうです。これだけ丁寧に作っているだけあって、「つやのある美しい仕上がりだ」と感心しました。

㈱ヤギサワでは、特殊加工木材として、硬質木材と熱処理木材を開発しています。**硬質木材**は、乾燥木材を専用の圧力釜に投入し、130℃の蒸気で 10 時間熱し、その後 1.5MPa の圧力を加え、温度が 60℃程度に下がったところで完成する。波打つ模様が表現され、デザイン用としても使われる。特許を取得しています。

硬質木材

熱処理材は、専用容器の中で高温（230℃）の菜種油で 18 時間熱処理してできる。耐久性が飛躍的に向上して、デッキや壁などの外構材とよく使われるそうです。

㈱ヤギサワが木材の新たな可能性を追求･努力するのは、木材製品市場からの注文が増加傾向なってきたことにあります。これは、「公共建築物の木材利用促進法」の制定により、学校や大型商業施設の木造化・内装木質化が推進されていることにもよるでしょうが、栃木県産材・日光材の優良なことを認めた産地指定の注文が増えていることによるそうです。大型の製材を大量にこなす大型製材工場に対抗するためには、一つ一つの注文に応えられる加工技術を磨き少量多品種の生産体制と他ではできない製品の提供を心がけていくことが中小製材業の生きる途という言葉は心に響きました。

熱処理材

A-WASS 事務局長　花岡崇一　hanaoka@bdvision.co.jp